

夕張川かわら版

「夕歩道」とは
夕張川と流域住民をつなぐ
川の道です

夕歩道

平成22年 早春

其の
一六

「夕張川再生にかける思い」と題して、栗山町でシンポジウムが開かれました。最初に、空知支庁南部耕地出張所の川崎氏から、栗山町ハサンベツ川で行なわれている「農地を流れる小河川整備道州制モデル事業」の成果について報告があり、次にオオムラサキの会の高橋氏からは、チャイ（アイヌ語で「イトウ」）の付く地名についての発表がありました。

高橋氏は、イトウが生息できる環境を備えた河川が、道内にたくさんあったことを、地名をたよりに紹介しました。栗山青年会議所（J.C.）の梅津氏は、J.C.がサケマス回帰運動にかかわるきっかけから現在の活



シンポジウムに約50名が参加

動（署名活動、稚魚放流等）を紹介、これからの活動のキーワードとして「ふるさとへの思い」を挙げました。流域生態研究所の妹尾氏からは、「夕張川再生は流域住民の思いも大切だが、肝心の魚達が本場に生きていける環境があるか、そのための川づくりができていくか、魚達の気持ちになって、進めていってほしい」とアドバイスがありました。

～夕張川について魚道ができる蘇るサケ・マスの銀鱗とモクズガニ～

5尾のサケは今にも飛び出しそう!



会場に展示された、今にも飛び出しそうな見事な「サケの彫刻」



講演した梅津氏(右)、川崎氏
開会挨拶をする
榎原栗山町長(右)と妹尾氏

各団体からの活動報告
おっ鳥クラブ
ハサンベツ川の鳥類標識調査報告

◎栗山町ハサンベツ川で鳥類標識調査を行っており、延べ1,034羽に標識をつけた。調査目的は野鳥の生息状況や渡りのルート等の解明である。昨年はリングをつけたアオジ



各団体からの活動報告

おっ鳥クラブ
ハサンベツ川の鳥類標識調査報告

問 夕張川クイズ
これはなんでしょうか?



*答えは4面最後です

第19回 夕張川流域会議が開かれました

◎日時：平成22年2月16日（火） 13:15～16:00
◎現地見学場所：清幌床止魚道改築工事箇所
意見交換場所：南幌町ふるさと物産館「ビューロー」

第19回目の流域会議は最初に清幌床止の魚道改築工事を見学、その後場所を移し魚道改築工事や流域が一体となつて取り組む活動等について意見交換を行いました。このほか、今年度の工事報告、各団体の活動報告がありました。以下、各団体からの活動報告です。

夕張川なんでも探検隊
夏秋2回のかわ塾・「桜植樹の会」計画報告

◎昨年は、夏秋2回のかわ塾を実施した。夏は前日までの雨が多かつたため場所をハサンベツに変更して魚獲りを行った。秋はきのこ獲り、ニジマスを釣り調理をして食べた。今年も同様の活動を考えたい。

◎ライオンズクラブ、観光協会、ロータリークラブ等が働きかけ、由仁を桜のまちにしようとして桜植樹の会をつくることになり、入会者を募集している。春には由仁川河川敷に植樹をする予定である。

栗山J.C.
サケ稚魚飼育報告

◎サケ放流に備えて稚魚を飼育している。成長とともに水槽では飼育できなくなるので、現在、屋外にプールをつくっている。4月11日に放流の予定である。



◎詳細は、石狩川開発建設部ホームページをご覧ください。
(<http://www.is.hkd.mlit.go.jp>から「事務所・事業所・管理所」をクリック)

川の学習手引書を使いこなす人になりたい

川活動のための人材育成



RAC講習
(川の活動指導者
育成プログラム)
を受講

◆受講者の感想◆

「活動の手伝いはできるだろうが、場数、経験を重ねることが大切だと感じた」
「スローロープの使い方、ライフジャケットの意味もわかった」
「講習だけで指導者になれるわけではないが、講習の機会は持ち続けたい」

復習のために実際の活動(かわ塾、川の楽習会)に参加



川の楽習会「清幌床止」



かわ塾「夕張川・川下り」

問の答え

水位の危険度をレベルで区分けした表示板

馬追橋下流左岸の高水敷にある水位表示板は、水位の危険度によってレベル分けがしてあります

レベル	危険度	
レベル4 危険	はん濫危険水位から上	赤色
レベル3 警戒	避難判断水位からはん濫危険水位まで	赤色
レベル2 注意	はん濫注意水位から避難判断水位まで	黄色
レベル1	はん濫注意水位から下	白色

危険レベルごとの自治体、住民に求める行動

レベル4 危険	●はん濫危険水位を超えたとはん濫のおそれがあります。 ●住民は避難を完了する段階です。
レベル3 警戒	●自治体は、避難勧告などの発令検討する段階です。 ●住民は避難を判断する段階です。
レベル2 注意	●自治体は、避難準備情報の発令を検討する段階です。 ●住民は、はん濫に関する情報に注意が必要です。水防団は出動する段階です。
レベル1	●水防団は、待機を行う段階です。

今年度の川の学習手引書作成のための会合のテーマは、「川の学習手引書を使いこなす人になる」、「次の学習手引書のイメージをつかむこと」でした。「手引書を使いこなす人になる」では、3日間のRAC講習会に参加し、その実習の活動で現場体験をしました。次期手引書のイメージとしては、大人を対象に川の自然の素晴らしさを学び、感じ取れる手引書等が提案されました。

次の学習手引書のイメージ

3回の意見交換のまとめ

次期手引書についての提案

- 大人を対象に川の自然の素晴らしさを学び、感じ取れる手引書
- 流域の場所情報(比較的安全に遊べる水辺情報)を掲載した手引書
- 川活動に合わせて必要な資料を継ぎ足していく、または資料の出し入れができる手引書

この他に、「流域に関する歴史文化を5カ年計画くらいでまとめる図鑑タイプも考えたい」「栗山町ふれあいプラザのような情報拠点の利用と連携した手引書活用が必要」といった意見も出されました。



1回目 6月23日



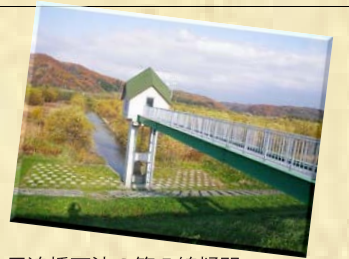
2回目 12月3日



3回目 2月4日

川の学習手引書作成のための会合 RAC講習にも参加

◎日時：平成21年6月23日（火）、12月3日（木）、平成22年2月4日（木）
◎場所：栗山町カルチャープラザ「Eki」



馬追橋下流の第5線樋門



川と牛蒡「樋門」

夕張市立のぞみ小ホルカクルキ川で体験学習

「川で楽しいね〜」

○日時 平成21年9月3日(木)
○場所 ホルカクルキ川(夕張川支流)



参加したのぞみ小学校のみなさん

夕張市紅葉山にあるのぞみ小学校がホルカクルキ川で川の体験学習を行いました。参加したのは、かわいい1年生と2年生18名です。体験学習のメニューは、水生生物の観察、魚獲り、川流れ体験の3つ。少し冷たい水でしたが、みんな元気がいっぱいでした。

時間	行程及び活動内容
9:40	ホルカクルキ川着、準備
9:50	学習内容、注意事項の説明
10:00	水生生物の観察、魚獲り、川流れ体験
11:30	活動のまとめ、着替え
11:50	ホルカクルキ川発、移動

スケジュール

網の使い方を学ぼう



瀬の石裏の魚を獲るよ〜



獲れた生き物はバケツで分類



しゃっこい〜

子ども達が獲った生き物

- 魚:ウグイ、ジュスカケハゼ、ハナカジカ、フクドジョウ、ドジョウ、スナヤツメ
- 水生昆虫:ヒゲナガカワトビケラ、フタスジモンカゲロウ、エルモンヒラタカゲロウ、サナエトボ科のヤゴ、オニヤンマのヤゴ

ウグイとフクドジョウが多かった

川遊び入門 スローロープ



スローロープです

河岸から助ける人に向かってロープを投げて救助します。



今回は、川遊びの必携器具になっているスローロープ(レスキューロープともいう)を紹介します。布性のバックまたはメッシュになっているバックの中に水より比重の軽いロープが入っているととてもシンプルな構造です。ロープやバックの色も視認性のいい黄色、オレンジ、赤などが使われており、これを陸地から投げて救助するというものです。簡単な構造で簡単な使い方なのですが、使い方を間違えると2次災害ということにもなってしまいます。投げ方も日頃から練習していなければ、うまく使えません。

【注意事項】

- ロープを投げる練習を必ずしておく(使い方の指導を受けておく)
- 救助側の安全を確保してから使う
- 救助側、される側双方ともにロープは手や体に巻きつけない

南幌町清幌床止で夕張川・川の学習会が開催

○日時 平成21年9月9日(水)
○場所 南幌町清幌床止

洪水で河川敷にたまったゴミの山。「ゴミは誰が捨てるの?」と問いかけ



タモ網で魚のとり方を学んだら、川に入って魚獲り



南幌町みどり野小学校の児童が参加する夕張川・川の学習会は、前日の洪水のため場所を右岸側に変更して実施されました。河原へ行く途中、ゴミの山に遭遇しましたが、これも学習素材になりました。洪水のせいか、たくさんウキゴリが網に入りました。

1列になり、川を歩いてみる



獲った魚を夕張川たんけん学習ノートで確認



最後に川流れを体験



採取した魚

ウグイ、エゾウグイ、フクドジョウ、ドジョウ、トウヨシノボリ、ウキゴリ、シマウキゴリ、ジュスカケハゼ、スジエビ、スナヤツメ、ギンブナ、モツゴ

地域住民による植樹会 2009は由仁

石狩川流域1人1本300万本植樹運動

○日時 平成21年10月10日(土)
○場所 古山貯水池自然公園

「300万本植樹」は、「地域・世代の交流を図りながら1本1本の木を植え、自然の森を育て、次代へ引き継ぐ」ことを目的とし、平成8年から行われているもので、300万本の植樹は、石狩川流域の人口300万人に因んでいます。活動の受け皿になった由仁町のライオンズクラブでは、来年も、この植樹を続けていきたいとのことでした。



自然林に近い人工林をつくろう。

植樹運動のテーマ:石狩川流域住民が1人1本植樹を実践する

森の涵養機能を学ぶ

森と川の学習教室



森と、森がない時の水の流れがたのどしいは?



森では、ゆっくりと水がしみこみ浄化されます。

土を混ぜてポットに入れて苗を移植

苗づくり体験



ポットから苗を出し、穴に入れてマルチング

苗木の植え方



苗を木片で囲み、外来種の進入と乾燥を防止。

植樹の実践



誰でもできます。

数種類の苗を植えて後は自然まかせです。

植樹した主な樹種

オニグルミ、ヤチダモ、ケヤマハンノキ、ハルニレ、ミズナラ、イタヤカエデ、キタコブシ、マユミ、ナナカマド、エゾヤマザクラ、ホオノキ、ハクウンボク等